

審査の結果の要旨

氏名 秦 由美子

イギリスでは 1992 年にポリテクニクが大学に昇格することで高等教育の二元構造が一元化された。ポリテクニクはパブリックセクターに属し、多様な学習ニーズを持った非エリート層の教育を担う准高等教育機関として位置づけられ、プライベートセクターに属し伝統的にエリート教育を担うものとされてきた大学とは区別されてきた。本論文は、この一元化がもたらした影響をイギリス高等教育の発展史のなかに位置づけつつ明らかにすることを課題としている。

序章では、一元化がもたらした影響を明らかにするための分析の視点として、①学生の質、②学位の質と制度、③大学財政、④大学の自治の 4 つの問題領域を先行研究の検討に基づき設定する。序章に続く本論は二部構成である。第一部では、第 1 章でイギリス高等教育の歴史的展開を概観し、第 2 章で 1960 年代のポリテクニク誕生から一元化に至るまでの政策に特に焦点をあてて分析している。政府が一元化を推進した理由の一つとして、高等教育に対する国家統制強化と予算抑制の要請から、パブリックセクターに属するポリテクニクで行われてきた管理運営方式の大学への適用を企図する「管理的一元化」があったことが示される。第二部では、序章で設定した 4 つの問題領域に関する実証的考察を行っている。第 3 章は、一元化後の大学進学者の変化を質と量の両面から分析し、従来の一般的な大学進学ルート（GCE A レベル）以外のルートを経た学生が増加し、学士課程の教育課程も多様化していることを示している。第 4 章は学位制度の変化を検証している。第 5 章では、一元化以前の補助金配分機関である大学補助金委員会（UGC）が果たしてきた役割を中心に大学財政の特徴を示し、財政面から大学とポリテクニクの差異を明らかにしている。続く第 6 章は、一元化によって補助金配分機関も統一された後の大学財政・財務の新しい構造と特質を分析し、学生からの収入がより大きな意味を持つようになっていくことなどを指摘している。第 7 章は、管理運営面に着目して、伝統的大学（オックスフォード、ケンブリッジ）と旧ポリテクニクである「新大学」を比較し、理事会への権限集中や効率性重視などの「新大学」に見られる管理運営方式の特徴が伝統的大学においてはそれ程見られず、この点では「管理的一元化」があまり進んでいないことを指摘している。第 8 章では、学生の多様性と質を基準として一元化後の大学の分類を行い、「研究大学」「准研究大学」「教育系大学及び准学士号大学」（一部の「准研究大学」を含む）の 3 グループから構成されることを示している。終章では、以上の 4 つの問題領域ごとの分析結果をまとめるとともに、1992 年の一元化には、非エリート教育をエリート教育に包摂した点において、イギリス高等教育の発展史における固有の意味が見出せると結論づけている。

ポリテクニクの大学昇格による一元化については、既にいくつかの重要な研究があるものの、それがイギリス高等教育の構造と質に与えた影響を歴史的文脈に位置づけながら、多面的かつ詳細に記述した点において、本論文にはオリジナルな貢献を認めることができると評価された。よって博士（教育学）の学位論文として十分な水準に達しているものと認められる。